

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	同志社女子大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ドウシシャジョシダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	近畿地方(大阪府を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ2(社会システム学科・富良野)
	学部・研究科等名	現代社会学部社会システム学科
	担当教職員名・役職	天野 太郎 現代社会学部社会システム学科教授
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	13
	受入企業等数	9
	受入企業等名	富良野市役所、ファーム富田、東京大学北海道演習林、フラノマルシェ、富良野緑峰高校、富良野高校、一般社団法人暮らしステーション、富良野市教育委員会、F.C.S/富良野
	インターンシップの分類	8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	観光地域としての富良野の現状と課題について、十勝岳の防災課題、アスバラや米作農業の課題と六次産業化、東京大学演習林における森林開発の演習、ラベンダー観光や自然景観を活用した「フットパス」など持続可能な観光施設の在り方、地元の農業高校生との観光開発資源「富良野オムカレー」の共同販売など、観光にとどまらず地域活性化の実態について多角的な分析を行うとともに、その成果を市民や市民会議員等との交流会にて学生主体で報告を行った。
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		3年次以上
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		学科科目「応用・各論科目」の中の「キャリアデザイン科目群」の選択科目の1科目である。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 4.その他
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	大学コンソーシアム京都で開催されるFDフォーラム(2017年3月5日)において、担当教員と学生が報告を行った。対象:大学教職員・大学生・高校生・一般
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	実習期間中担当教員が引率
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	授業期間中に、4時間を使って富良野地域の概要と、富良野に関連する文献資料を講読し、問題の所在を明確化した。

	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	学習成果の取りまとめを行い、商店街での調査の報告をまとめ、現地企業などへのフィードバックを行った。また、その成果を学内外の報告会にて発信を行った。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事業中のアンケート調査を毎日実施し、問題の所在や課題を明確化することに活用した。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している 3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	8日
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	10日
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	8日
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前指導1日実習期間8日
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	富良野市議会議員に事前学習会を行っていただき、現地の課題を事前学習した。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://kyomu-web.dwc.doshisha.ac.jp/cam3/top.do
問い合わせ先	大学等名	同志社女子大学
	担当部署名	現代社会学部事務室
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	0774-65-8543
	メールアドレス	gensha-t@dwc.doshisha.ac.jp